

令和6年度全建賞 推 薦 調 書  
安全・安心確保に資する等の社会貢献活動並びに公共事業全般に係る広報活動・調査研究の部  
(安全確保・広報・調査研究の部)

ふりがな	れいわ6ねんのとはんとうしんおよびれいわ6ねん9がつ20にちからのおおあめにともなうてつらおーすのじちたいしえんかつどう
1. 取組(活動)の名称	令和6年能登半島地震及び令和6年9月20日からの大雨に伴うTEC-FORCEの自治体支援活動
2. 事業(施策)実施期間(和暦)	令和6年1月1日～令和6年5月31日、令和6年9月20日～令和6年11月1日
3. 事業費(調査費等)	－ 百万円
4. キーワード	広域派遣、TEC-FORCE、道路啓開、被害状況調査、支援物資輸送

5. 公共事業全般に関する取組の分類(下記3つの③のうち、いずれかに○印)			
取組の分類 :該当に○印	③-1 安全・安心分野	③-2 広報活動分野	③-3 調査研究分野
アピールする 1)「手段」	(a)複数の機関が連携した活動 (a)複数県にまたがる広域的な活動 (a)激甚災害に指定された災害復旧支援活動 ( )	( ) ( ) ( ) ( )	( ) ( ) ( ) ( )
アピールする 2)「秀でた 成果」	(a)早期復旧 (a)二次災害の防止 ( ) ( )	( ) ( ) ( ) ( )	( ) ( ) ( ) ( )

6. 事業概要
<p>令和6年元日に発生した能登半島地震は、多くの人的被害や住家被害、インフラ被害のほか、道路寸断による多数の孤立集落が発生し、極めて甚大な被害となった。発災直後より全国から派遣された TEC-FORCE により、様々な活動を通して自治体・住民支援を行った。また、令和6年9月20日からの大雨(奥能登豪雨)は、能登半島地震の復旧途上にある中、過去に例を見ない洪水氾濫や土砂災害が多数発生した。能登半島地震対応の経験を踏まえ、全国からの TEC-FORCE が迅速に自治体・住民支援を行った。</p>
7. 特にアピールしたい点
<p>能登半島地震、奥能登豪雨において、発災直後から、全国の地方整備局等から TEC-FORCE が集結し、24 時間体制の情報収集や応急対策(道路啓開、給水支援、電源支援等)、被災状況調査、高度技術指導、物資支援等、様々な活動を行った。半島特性による進入・活動の困難性や通信障害の発生、特に能登半島地震は厳冬期という厳しい環境下での活動となったが、全国の TEC-FORCE とともに、北陸地方整備局は総力を挙げて取り組んだ。防災ヘリやドローン、カーサット(Car-SAT)、災害対策車両、船舶など、陸海空からの被災状況調査や物資支援を行ったほか、ICT や衛星通信機器の活用も行った。また、建設業団体や自衛隊、警察、消防と連携した活動により、救助・救援や二次災害の防止、被災地の復旧に大きく貢献するとともに、被災自治体や地域住民より大きな信頼を得た。</p>

## 8. 事業を代表する写真及びキャプション



半島地理的条件下での道路啓開



被災自治体への多様な給水支援活動



照明車による避難所等への電源支援

## 9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法等)〕

### 1 職務の内容・重要性

- 能登半島地震や奥能登豪雨における、TEC-FORCE の主な活動内容は以下のとおりであり、国土交通省の総合力・現場力を活かし、被災地域の早期復旧・復興に取り組んだ。
  - ・被災した自治体の支援ニーズの把握、支援内容の助言
  - ・道路陥没、土砂災害等による通行不能箇所の道路啓開作業や河道閉塞箇所等の緊急工事、港湾施設の臨港道路等の応急復旧工事等を実施
  - ・停電、断水に伴い、応急対策支援として電源車、給水車を配備
  - ・自治体が所管する公共土木施設(河川、道路、港湾等)の被災状況調査及び建物の応急危険度判定支援等
  - ・飲料水、食料、ブルーシート等物資の支援
  - ・道路網の寸断に伴う、船舶を活用した支援物資輸送
- 被災が甚大であり、自治体職員では対応が困難なため、公共土木施設の被災状況の把握や、被災施設の早期復旧等には、国からの支援は不可欠であった。
- 建設業団体や自衛隊、警察、消防と連携した活動により、救助・救援や二次災害の防止に寄与した。

### 2 職務の特殊性・勤務環境

- 能登半島は、三方が海に囲まれており、その大部分が山地であるため、地理的な制約がある中で、能登半島地震においては、数少ない被災地へ向かう道路も被災しており、現地への移動が困難を極めた。また、被災地近傍では宿泊施設が被災したことにより利用することができなかつたため、活動期間中、通常では車で2時間程度要するところ、10時間を要することがあるなど、長距離・長時間の移動を余儀なくされた。奥能登豪雨においても、宿泊施設の復旧が進んでいない中で、遠方を拠点としながら、被災状況調査等に当たった。  
さらに、能登半島地震では、活動を行った時期が厳冬期であり、氷点下となる日が多かつたこと、活動地域では携帯電話が通じない状況であったこと、上下水道が被災しトイレが使用できない状況であったことなど、非常に厳しい環境下での活動であった。  
なお、能登半島地震においては、TEC-FORCE(全国)の延べ派遣人数が25,967名となり、令和元年東日本台風(30,513名)に次ぐ、歴代2位の派遣人数となった。また、TEC-FORCE派遣期間は、歴代最長の152日間となった。

### 3 公務の信頼の確保・向上

- これらの活動では、過酷な状況の中、多くの困難に直面しながらも、全国のTEC-FORCEとともに、北陸地方整備局が総力を挙げ、高い使命感を持って活動したことにより、被災状況の早期把握、被災施設の早期復旧に大きく貢献するとともに、被災自治体や地域住民より大きな信頼を得た。

#### 【令和6年能登半島地震】

TEC-FORCE 29 団体 3,783 名(のべ 25,967 人・日)

北海道開発局、東北・関東・北陸・中部・近畿・中国・四国・九州地方整備局、沖縄総合事務局、北海道・東北・北陸信越・関東・中部・近畿・中国・四国・九州運輸局、神戸運輸管理部、東京・大阪航空局、国総研、国土地理院、気象庁(地方気象台含む)、国交本省、土研、建研、港空

#### 【令和6年9月20日からの大雨(奥能登豪雨)】

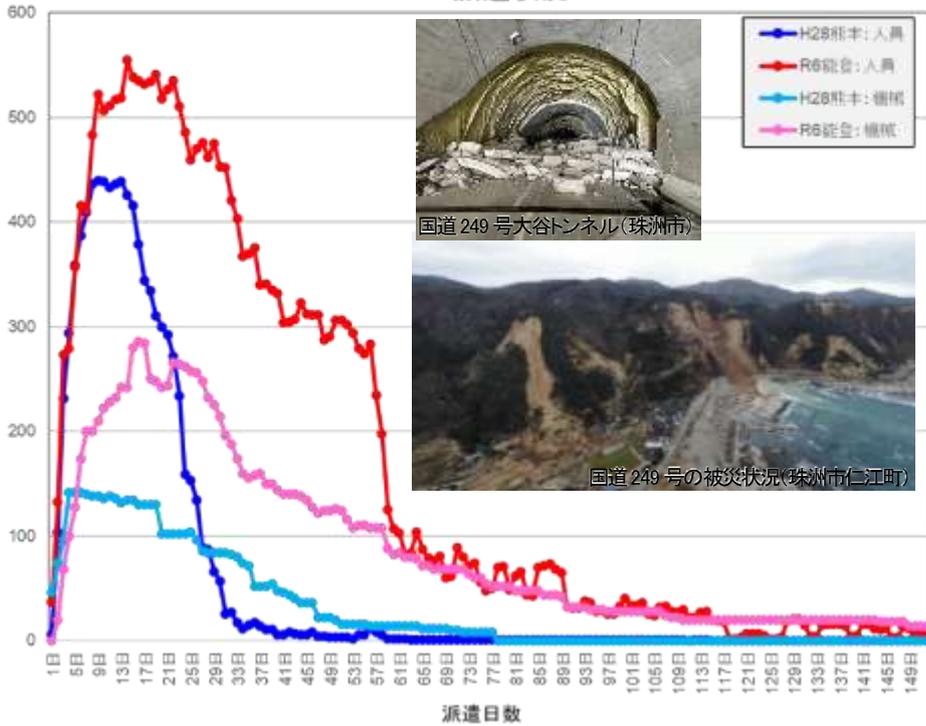
TEC-FORCE 12 団体 613 名(のべ 3,448 人・日)

北海道開発局、東北・関東・北陸・中部・近畿地方整備局、北陸信越運輸局、国総研、国土地理院、気象庁(地方気象台含む)、国交本省、土研

9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕

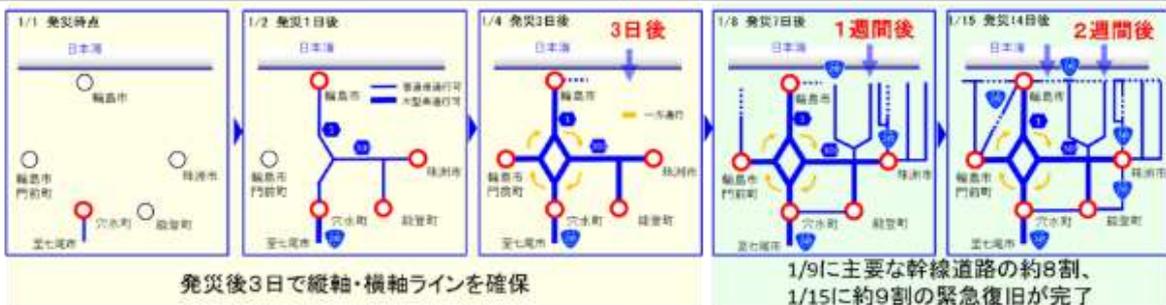
○令和6年能登半島地震は、のべ派遣人数が歴代2位、日最大派遣人数は歴代3位の派遣規模。

派遣数 熊本地震と能登半島地震へのTEC-FORCE(人員及び機械) 派遣状況



■半島地理的条件での道路啓開

- <孤立集落の解消に向け、県・自衛隊と連携し、陸・海・空からくしの歯状の緊急復旧を以下の手順で実施>
- 1/2 七尾市から、輪島市役所、珠洲市役所、能登町役場まで普通車での通行を確保
  - 1/4 輪島市役所、珠洲市役所、能登町役場まで大型車が通行可能となり、縦軸・横軸ラインを確保
  - 1/8 「くしの歯」の「歯」になる幹線道路の緊急復旧を継続し、能登半島内陸及び海側から7ルートを確認
  - 1/15 日本海側へ9ルートを確認し、緊急復旧を加速。国道249号等半島内の主要な幹線道路の約9割で緊急復旧完了



○緊急復旧(道路啓開)作業の様子



9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕

■全国の地方整備局から集結させた災害対策車両等による多様な支援

〔 給水機能付き散水車を活用した多様な給水(仮設トイレ、ランドリーカー、上水道施設、自衛隊入浴支援施設、病院等)  
待機支援車を活用した復旧事業支援者向け宿泊・休憩場所支援、浚渫兼油回収船等を活用した支援物資の海上輸送 等 〕



避難所仮設トイレ等への給水



移動式ランドリーカー、避難所洗濯機への給水



上水道施設漏水点検用の給水



自衛隊被災者入浴支援施設への給水



待機支援車を活用した宿泊等支援



浚渫兼油回収船「海翔丸」による  
支援物資の海上輸送

■全国からTEC-FORCEが集結し、被災状況調査や災害対策機械による応急対応等の技術支援を実施。



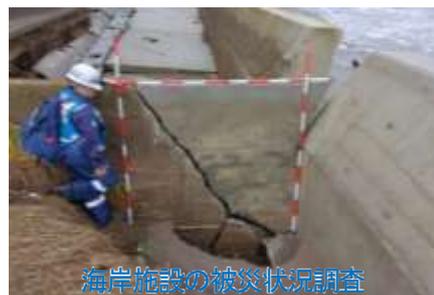
道路施設の被災状況調査



土砂災害の被災状況調査



河川施設の被災状況調査



海岸施設の被災状況調査



港湾施設の被災状況調査



建築物の応急危険度判定



排水ポンプ車による排水活動



航路啓開活動



液状化被災状況調査